

婦人会報

令和五年
8月2023年
立教186年



天理教婦人会旭日支部

通卷530号

九月例会案内

日時 九月五日（火）午前十時
 場所 旭日大教会
 内容 教祖祭
 お願いごとめ
 お手なおし（九下り、十下り）
 昼食



※ 昼食は食堂にてお召し上がり頂きます。
 ※ 社会状況により変更になる場合がございます。

九月例会役割

扨者	庄司 英美	藤井 綾子
賛者	村井みちよ	岩崎 千鶴
指図方	庄司 典子	

八月月次祭炊事当番

係員 西岡 旬子 庄司裕美子

※9時までにはエプロン・三角巾を持参の上お越し下さい。

八月月次祭親子参拝場ひのきしん当番

係員 奥田 裕美 田中もっこ

◇四月より「月次祭託児」ではなく、育成室にて親子で参拝する部屋を「親子参拝場」として設けていますので、ご利用下さい。
 午前九時十五分より祭典終了までです。

委員部長後継者及び教会子弟夫人講習会ご案内

日時 8月27日（日）午後1時半から
 場所 旭日大教会 会議室



「おつとめの心構え」

vol.12

今回は「八下り目」
について述べさせ
ていただきます。



● 八下り目（慶応三年）【参考文献『みかぐらうたの世界をたずねて』道友社編】

◎一ツ

ひろいせかいやくになかに
※₁ いしもたちきもないかいな

一ツ 広い世界や国の中に、普請の用材になる石も

立ち木もないのであろうか

※1 「いしもたちきも」

|| 地に付いて粘り強く、教えの理を守ることに堅く、円満でたんのう心深いのが石。歪みかがみなく、真直ぐ一すじで、理を立て切る心強く、勢いのあるのが立ち木で、これが親神様のお望みの人材であると思案される。

◎二ツ

ふしぎなふしんをするなれど
※₂ たれにたのみハかけんでな

二ツ 不思議な普請をするのだけれど、だれに頼みを

かけるわけではない

※2 「ふしぎなふしん」

|| 人間の智慧や力の及ばぬ普請、又頼みも頼まれもせず
に出来る普請、即ち神様の遊ばす『きりなしふしん』
のこと。

◎三ツ

みなだん〜とせかいから
よりきたことならでけてくる

三ツ みなだんだんと世界から、寄つて来たことなら

ば出来上がってくる

◎四ツ

よくのごころをうちわすれ
とくととごころをさだめかけ

四ツ

欲の心をすっかり忘れて、篤と心を定めてか
かるように

※3 「とくと」

|| (篤と) よくよく。念を入れて。つらつら。とつ
くりと。

◎五ツ

いつまでみあわせるたるとも
うちからするのやないほどに

五ツ

いつまで普請を見合わせていても、内々から
するのではない

※4 「内からするのやないほどに」

|| 内々からだけではない。寄り来た者の
真実によって出来上がってくる。

◎六ツ

むしやうやたらにせきこむな
むねのうちよりしあんせよ

六ツ

それにしても、むやみやたらに急ぎ込むでな
い。心の底からよく思案せよ

※5 「むねのうちより」

|| 心の底から。しっかりと。じっくり。

◎七ツ

なにかごころがすんだなら
はやくふしんにとりかゝれ

七ツ

何か心が澄んだなら、早く普請にとりかか
るように

※6 「何か」

|| 何か。何でもよいが、何か一つ。

◎八ツ

やまのなかへといりこんで
いしもたちきもみておいた

八ツ

山の中へとはいり込んで、用材となる石も立
ち木も見ておいた

※7「やまのなか」

|| 親神様の御教がまだ伝わっていない土地処。

◎九ツ

このききらうかあのいしと
おもへどかみのむねしだい

九ツ

この木を伐ろうか、あの石を切り出そうか、
それは神の胸次第である

※8「おもへどかみのむねしだい」

|| 神の胸次第に引き寄せる。用材は人が選んでい
るのではなく、神が選ばせているのだというこ
とか。

◎十ド

このたびいちれつに
すみきりましたがむねのうち

十ド

とうとうこのたびみな胸の内がすつきりと澄
み切りました

※9「澄み切りましたがむねのうち」

|| いよいよ不思議なる普請に取り掛かる時句であ
る。そうした状況に早くなることを神は待ち望
んでいる。

世界のふしん(陽気ぐらし世界の建設)を担うよふぼくについて歌われています。神の不思議なふしんは、欲を忘れて
神一条の心を定めてかかるところに、人知を超えた不思議なお働きを頂いて進められていくと教えられています。形
の普請と心のふしんが相伴つてこそ、求める普請が成就することが示されています。一ツ・二ツ・三ツで形の普請に寄せ
て、四ツ・五ツ・六ツ・七ツで心のあり方(欲を忘れ、心澄ませる思案、心定め)八ツ・九ツでは、神が先回りして準備をし
ていると明らかにされ、十では、不思議なふしんができあがるのは、一列の心が澄み切った、かんろだい世界が実現し
た時であると述べられています。

R186

こども おぢばがえり



笑顔あふれる最高の夏！

今年は、みんなが待っていた「こどもおぢばがえり」が、4年ぶりに開催されました。連日の暑い中、ひのきしん誠にありがとうございました。また、受け入れにあたり、ふきんや洗剤も届けて頂きありがとうございました。



ご飯の準備。カレー・唐揚げ・ポテトなど。おいしかったです！



配膳・片付け



お掃除をして帰参される皆さんを受け入れます。



暑い中たくさんの方のひのきしん、ありがとうございました。



アチコチランド♪



夜のおたのしみ行事



お祭りみたいで楽しい♪



旭日鼓笛バンド 金賞

ポンポン 優秀演技賞



また来年も元気に会いましょう!

「皆一名一人の心の理を以て生れて
居る」

さあ／＼人間というのは神の子供という。親子
兄弟同んなじ中といえども、皆一名一人の
心の理を以て生れて居る。

(おさしづ 明治23年8月9日)



発行日 令和五年八月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八

天理教婦人会旭日支部